

はじめに

2022（令和4）年度のQOL研究機構 社会福祉学研究所 研究・活動報告書をお届けいたします。本研究所では毎年研究・活動助成を行い、その成果を研究・活動報告書としてまとめています。2020（令和2）年度からの活動は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大きな制約がかかり、3年目となる本年度も引き続き研究・活動に大きな制約がかかりました。しかし、国や地域により徐々に規制は緩和されつつあり、日本においてもコロナ禍前の日常を取り戻していく方向となっています。今回報告されている「のべおか子どもセンター」の活動も感染予防対策を取りながら、対面での活動を再開しています。また、社会福祉学研究所が属する本学QOL研究機構のシンポジウムも対面にて開催されました。

『「のべおか子どもセンター」21年目の活動報告』では、21年目を迎えた延岡市教育委員会（社会教育課）との連携事業である「のべおか子どもセンター」の本年度の取り組みと活動が報告されています。親子体験活動は全6回企画し、悪天候による1回の中止以外の5回実施することができ、参加者から喜びの声を多くいただきました。子育て講話は、4回のweb配信に加えて対面で2回実施することができ、令和5年2月5日の20周年記念式典も対面で開催することができました。

『地域在住高齢者が家庭で実践できる複合的転倒予防策の提案』は、令和4年12月17日に「ロコモティブシンドロームの予防・改善を目指して」をテーマとして開催されたQOL研究機構シンポジウムの中で紹介した研究の概要です。

本研究所の研究・活動および本報告書の内容が、より良い地域社会を構築するための一助となりますことを願っております。

令和5年3月

九州保健福祉大学
QOL研究機構 社会福祉学研究所
所 長 正 野 知 基